

令和5年度

関係人口創出・拡大のための対流促進事業  
(中間支援組織の提案型モデル事業)

事業の実施結果  
(概要)

団体名	株式会社三河の山里コミュニティパワー
事業名	おたがいさま人づくりプロジェクト

- 山村地域の住民と高校生、都市部の大学生の3者が「地域課題の探究」をテーマに共に考え学ぶ場を作ることに関係の深化を図り、地域新電力の強みを生かして人と再生可能エネルギーが循環する地域づくりの機会創出を目指した。
- 年間を通して若者を中心とした多者協働の機会を設け、地域での新たな取り組みに繋げるよう場づくりを行った。

## 主な活動内容

### 1. 夏季フィールドワークの実施

- 2023年8月に大学生7名および地元高校生5名を対象とする5日間の地域フィールドワークを開催した。
- 地域集落や事業者へ赴き、農作業体験やインタビューセッション、地域課題を考えるワークショップを行った。
- さらに派生した企画として、関係人口を含めた地域づくりの活動発表を行うフォーラムを行い、60名を超える参加者を集めた。

### 2. 小水力コーディネートの実施

- 地域には隠れたエネルギーがあり、自分たちでも作れるということを地域の人、地域に関わる関係人口に気づいていただく。そのため以下の小水力開発を通じた地域づくりを行った。のべ参加者は90名を超えた。

2023年12月 発電ワークショップ

2024年2月 小水力フォーラム・小水力遺跡探求ツアー



フィールドワーク写真（農作業）



発電ワークショップ写真（水車設置）

## 主な成果

### 1. 参加者や地域の声

- 発電ワークショップでは、地域の小学生から「次回は運営スタッフとして参加したい」親からは「費用負担をしてもいい」という声があった。フィールドワーク参加者も、地域の課題に取り組む人の魅力に触れたことで、継続して参加したいという声が聞かれた。
- このようなツアーやイベントへの参加を通して、実際に集落に継続して入り、社会調査やお祭り、ワークショップの運営協力など自主的な地域活動を行う都市部の参加者が複数発生した。

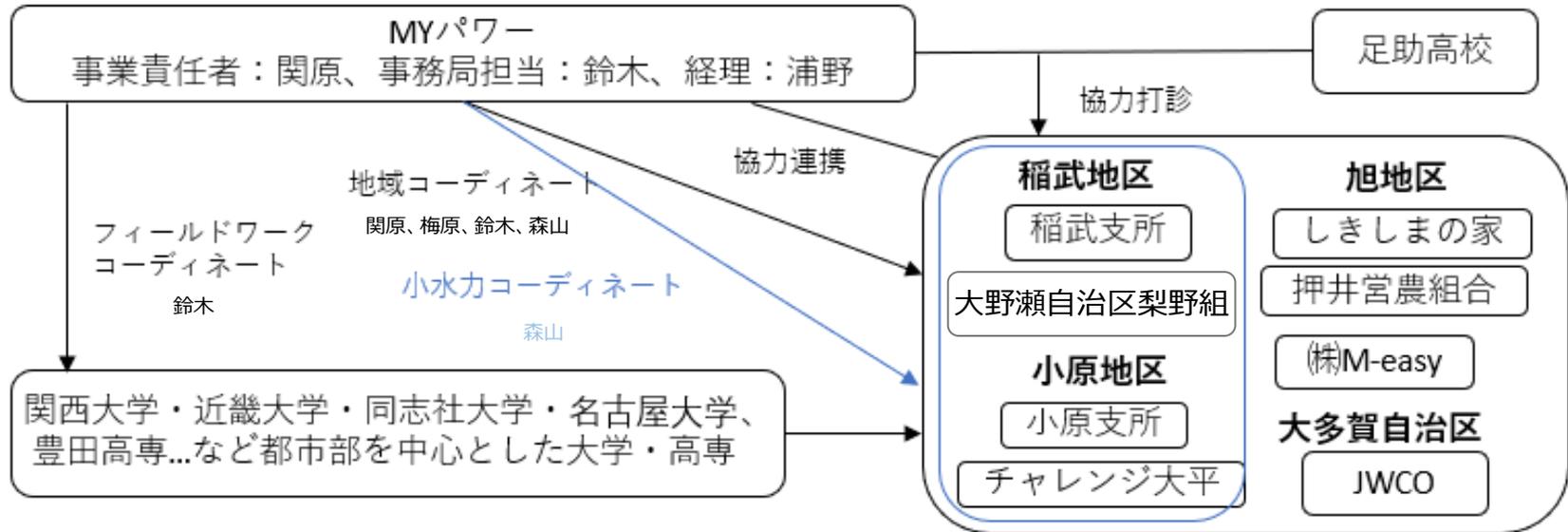
### 2. 地域への影響や関係人口側の変容・文化的充足感

- 地域側では受け入れを通して地域愛着が高まり、今後も都市部より若手を受け入れたいという声がさらに高まっている。
- 取り組み自体が楽しければ、小学生までもが主体的な担い手として動いてくれるという実感が得られた。

### 3. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 実現には至らなかったが、地域内のゲストハウスなど強いシナジーがある事業者を発見することができ、今後の協働が検討できる。
- 関係人口の拡大を目指す、自然と協力者や団体が繋がり増えていく。この繋がりをキャッチするアンテナを常に張っていることが重要だと感じた。

## 事業実施体制・関係機関



団体名	役割
しきしまの家	地域の世話役
チャレンジ大平	地域の世話役
(株)M-easy	運営サポート
日本福祉協議機構 (JWCO)	運営サポート
小原支所	地域コーディネーター・助言
稲武支所	地域コーディネーター・助言
大野瀬自治区梨野組	地域の世話役
押井営農組合	地域の世話役

## 次年度以降の事業展開

- ① 個人向けメニュー…参加者へのアンケート調査等から、フィールドワークに参加する大学生からの参加費は3~5万円程度、小水力ワークショップは1万円以内で参加費の徴収が可能であることが見込まれ、次年度より一部有償化する。
- ② 企業・大学への法人向けメニュー…地域内での実際に行われた類似の事例についてヒアリングした結果、社員研修等の目的でツアーに参加する企業があれば、人材育成や組織活性化というメリットがあることから対価（1企業あたり30万円程度）を頂ける可能性が見込まれる。また一部の大学より、授業の一環としての有償の課外学習について相談を受けており、有償メニューとして検討する。今後はスポンサーしてもらええる企業を如何にして増やせるかが課題となってくる。
- ③ 地域課題解決金…若者が地域に定着することへの期待は大きく、その期待に応えることが弊社の電力事業にもメリットがある。このため小売電力事業の利益の一部を投資的に利用して、補填を行い、事業を継続する。
- ④ 地域内連携…地域旅行業や飲食店、ゲストハウス、足助高校（観光ビジネスコース）、その他行政事業などシナジーが強く見込まれる地域内の事業体や活動に年間を通して出会い、理解を得られたことで、運営協力や送客など協働が部分的に始められた。また受け入れを行なった地域集落で今後の受け入れにも前向きな声が上がっている。今後も丁寧な調整を図っていけば、受入機関の持続的な参画が見込まれる。
- ⑤ 他地域展開…まず単一の事業として成立が見込まれたら、その後県内奥三河地域（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）での展開についても同様に検討する。

	費目	R 6	R 7	R 8
支出	人件費（事務局・地域コーディネータ）	6,000千円	6,600千円	7,200千円
	旅費・印刷製本費・会議費（出張費・資料・会場費）	300千円	400千円	500千円
収入	事業収入（ツアー参加費用）	3,000千円	3,600千円	4,200千円
	事業収入（企業からの対価報酬）	3,300千円	3,600千円	3,900千円

## 自立・自走化にあたっての課題

- 受入を行う地域の活動団体や事業者は、深刻な担い手不足という課題を抱えてはいるが、そこに費用を投じることは現実的でなく、地域側から集金することはかなり難しいことがわかった。運営コストを下げながら、参加者負担をメインに考える必要がある。
- 足助高校や過去のフィールドワーク参加者などの協力を得ながら運営負担を下げることを目指したが、今年度事業の範囲内では十分にできなかった。今後も継続して検討したい。